

OECD東南アジア地域フォーラム開会式における 中根外務副大臣スピーチ(仮訳)

ピチェート・タイ・デジタル経済社会大臣,
ウィラサック・タイ外務副大臣,
グリアOECD事務総長,
各国代表団,
ご列席の皆様,

今般のOECD東南アジア地域フォーラムの開会に祝意を表します。ホスト国タイ、東南アジア地域プログラムの共同議長国であるインドネシアとOECD事務局に対し、感謝を表します。

特にタイには、前国王崩御後の服喪期間にあるにもかかわらず、この会合を開催するための準備にあたっていただいたことに感謝し、ワチラロンコン国王即位へ改めて祝意を表します。また、タイはOECDタイ国別プログラムの開始を控え、政府を挙げて国内改革に取り組む積極的な姿勢に敬意を表します。

今回のフォーラムのテーマは、「デジタル化による変革の機会と政策課題」です。OECDは、デジタル化をより良い暮らしや包摂的な経済成長につなげるためには、どのような政策が必要か活発な議論を進めており、日本も積極的にその議論に貢献しています。

今日このテーマについて、OECDの豊富なデータや知見も活用しつつ、東南アジアの文脈で議論することは時宜を得ています。

現在、OECDはデジタル化が人間生活の様々な分野で生み出す可能性や影響を評価する水平的プロジェクトを進めています。デジタル化による変革を「課題」ではなく「機会」として捉えることが非常に重要です。我々は、イノベーションの創出や生産性の向上、格差の是正等に役立た

せるべく、その便益が社会の隅々に行き渡るための政策を立案し、それを実行していかなければなりません。

デジタル化の効果的な活用は、生産性向上や地域の連結性強化に貢献し、ASEAN諸国が抱える「中所得国の罫」等の課題への取組に役立ちます。そのためにも、ブロードバンドなどのICTインフラ整備、情報の自由な流通やサイバーセキュリティの促進、知的財産保護、IT教育の提供などが不可欠です。

ICTインフラ整備については、インフラへの投資を促進するための競争的な市場環境の整備と、長期的に安価で持続可能な質の高いインフラを推進していくことが重要です。また、情報の自由な流通は、イノベーションの創出や社会課題の解決のための土台です。

OECDには、デジタル化の分野を含め、高いレベルの国際的なスタンダードを作り上げる役割があり、それにより世界の経済成長と貿易拡大に貢献しています。また、そのスタンダードを非加盟国にも広めることで、国際協調のベースを作る役割もあります。

好例としてOECDの「BEPS包摂的枠組み会合」があり、東南アジア諸国を含む100以上の国と地域が参加しています。BEPSにより、国際社会はOECDの国際経済ガバナンスにおける有用性と影響力を再認識しました。BEPSの枠組みへの参加は、各国の徴税制度の正統性確保や、国際経済ガバナンスの改善の観点から、極めて意義があることです。

スタンダード作りのプロセスは、それが拡がることと同様に、非常に重要です。本年の閣僚理事会は、OECDの開放性について再確認しました。東南アジア諸国は、世界経済で重要性を増しています。これら諸国が、開かれたOECDにより能動的に関与し、スタンダード作りに参画することは、将来のアジアの更なる経済発展に貢献するのみならず、国際経済ガバナンスにおいてより重要な役割を担うことになると思います。

すなわち、スタンダードが東南アジア諸国に内部化され、それが地域

統合と国内改革の基礎となることは、地域の経済ガバナンスに大きなインパクトを与えます。このようなスタンダードは、東南アジア地域全体が「中所得国の罠」に陥らないためにも、有効です。結果的に、東南アジア諸国はより大きな役割を果たすようになり、国際経済におけるその影響力を増大させるでしょう。

東南アジア地域プログラムが発足してから3年が経過しました。プログラムは、その主目的である地域統合と各国の国内改革の支援で成果を出してきています。

政策対話の進展に見られるように、東南アジア地域プログラムにおける協力は制度化及び強化されています。この状況を受け、ASEANは、その経済分野での統合プロセスを定めた「ASEAN経済共同体(AEC) 2025」において、OECDを戦略的協力機関と位置づけ、その知見を統合プロセスで積極的に活用することを表明しています。

OECDは、インドネシアの合同作業計画やタイ国別プログラムの開始などのバイの協力の推進や、レビューや報告を通じたOECDからASEAN諸国への知見の提供を通じ、東南アジア諸国の国内改革を支援してきました。ASEAN諸国が加入するOECDの法的文書(リーガル・インストゥルメンツ)の数も、東南アジア地域プログラム発足の2014年から昨年末までに、26から45に増加しています。

OECDとASEANの協力は益々深まっており、OECDでの東南アジアのプレゼンスは大きく向上しました。日本は、東南アジア地域プログラムが更に発展し、より多くのASEAN諸国がOECDとの関係強化に踏み出すことを期待しています。日本は今後もOECDとASEAN諸国の橋渡し役として貢献していく所存です。

ご静聴ありがとうございました。

(了)